

心大血管手術後の

心臓リハビリテーション実施率



測定対象

《分子》 分母のうち、心大血管リハビリテーションを実施した患者数

《分母》 心大血管手術を行った退院患者数

解説

ガイドラインでは心臓外科手術後の過剰な安静臥床は身体デコンディショニングを生じたり、各種合併症の発症を助長するため、心臓外科手術後の急性期には、循環動態の安定化と並行して離床を進め、早期に身体機能の再獲得を目指すことが重要とされています。そのため、手術翌日から立位および歩行を開始し4～5日で病棟内歩行の自立を目指すプログラムが行われています。心大血管手術後の心臓リハビリテーション実施は患者の早期退院、早期社会復帰につながるため重要です。

結果

2019年度 83 %

2018年度 79 %

分析

目標は概ね達成されていると考えられます。重症心不全や長期のICU管理が必要となった場合に早期リハビリテーションの開始が困難となる場合があります。そのような状況での廃用予防対策は今後の課題と考えられます。